

文化財センター通信

【かざぐるま】

# 風車

第 30 号

平成 19 年 1 月 11 日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

特集 けいなわ 京奈和自動車道（紀北東道路）遺跡発掘調査  
にしいぶり 西飯降Ⅱ遺跡、ちやうのまち 丁ノ町・みやうじ 妙寺遺跡

京奈和自動車道（紀北東道路）の建設に先立つ、かつらぎ町西飯降Ⅱ遺跡と隣接する丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査も、いよいよ、折り返し地点に達しました。調査地の前半部の調査を終え、11月4日には現地説明会を開催し、多くの方々が参加してくださいました。今号では、これまでの調査でわかってきた成果をお知らせします。調査地では、大きく弥生時代中期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代後半、鎌倉時代前半、室町時代の六時期にわたって人々の生活の跡が見つかりました。

## 奈良時代から室町時代

**水田**（写真②）が営まれていました。水田の中心では**人と牛の足跡**が多く残っていました。さらに、水田の真下に洪水層を挟んで奈良時代の水田が残っていて、両時期の水田とも北側の山裾から湧く

自然流路の両側に**畦**を盛って**水路**としていました。また、2A1区の北側山際では、**鉄滓**（鍛冶の際にできる鉄製分を含むんだ鉄クズ）や壁が焼け、炭を多量に含んだ、平安時代の穴が見つかりました。**鍛冶**が行われていたようです。

## 古墳時代後期

2A1区と2B2区は、住居が点在する居住域でした。4基の**方形竪穴住居跡**が見つかりました。残りの良い住居は5095住居（写真⑤）や5089住居です。5095住居の規模は一边約4メートル、深さ15センチメートルです。4本柱で、北西辺中央に**造付けのカマド**を備えています。カマドの中央には細長い石の支脚が残っていました。南西角には貯蔵穴と思われる穴があり、その周辺は礫敷です。壁に沿って**壁溝**（壁板の痕跡）

### — 第 30 号の主な内容 —

1. 京奈和自動車道遺跡発掘調査
  - ・調査の中間報告
  - ・現地説明会、発掘体験会の報告
2. 秋季企画展「平安京と紀伊」の総括

が部分的に巡っています。5089住居は火災にあった**焼失住居**です（ホームページ・京奈和通信5を参照）。また、2A1区の北東から南西に川（5186溝）が流れています。



写真①古墳時代の樽形ハソウが出土  
たるがた

西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡 主な遺構の分布

写真② 奈良時代の水田 南東から



写真③ 5269 方形周溝墓 東から



写真④ 竪穴住居 5185 住居

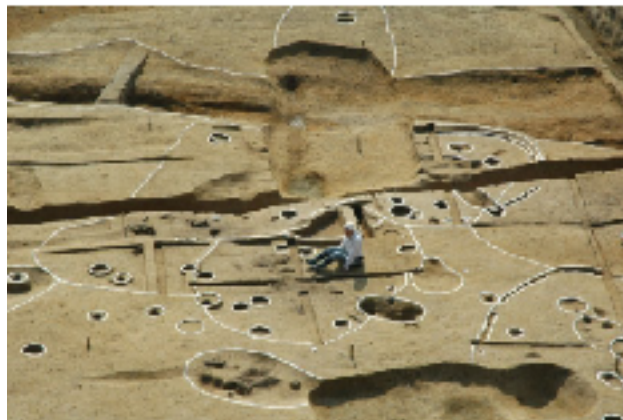


写真⑤ 土器棺 5246

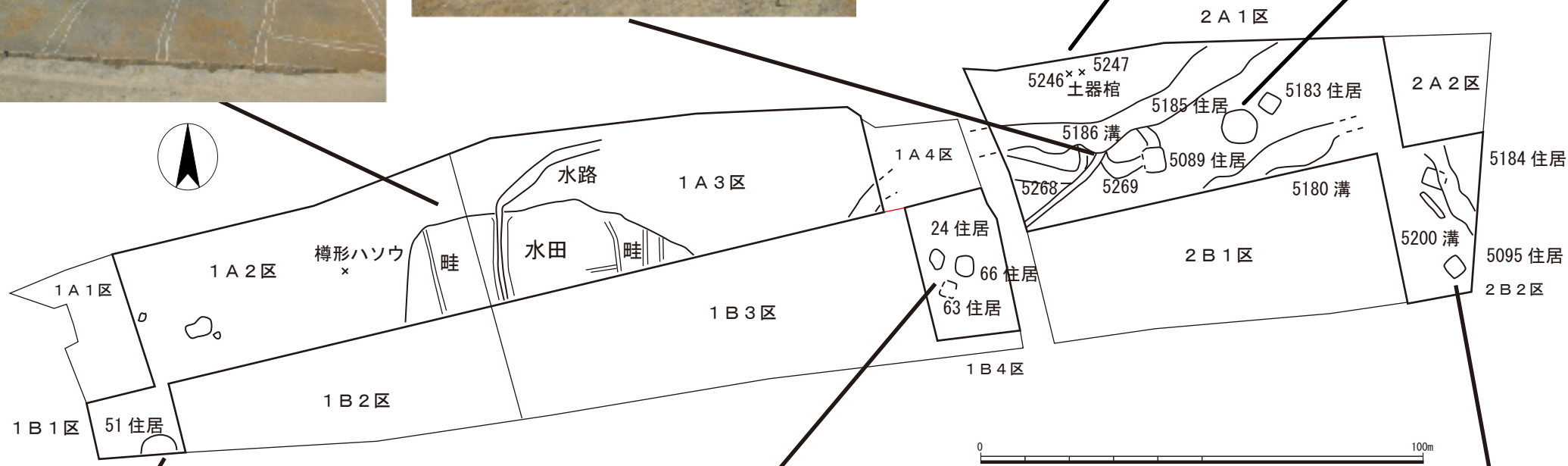
写真⑧ 竪穴住居 51 住居 東から



写真⑦ 平地式住居 24・63・66 住居 北西から



写真⑥ 竪穴住居 5095 住居 南西から



弥生時代中期

2A1区と1B1区を中心に**円形竪穴住居**が点在し、2A1区の北西山際を中心にいくつかの墓が見つかりました。

**5185住居**（写真④）は、2A1区のほぼ中央に位置します。直径は約8メートル、深さは約40〜20センチメートルです。床面には10基以上の柱穴が

あり、中央にはくぼみがあります。これは炉穴とおもわれます。壁際には、

壁溝が巡ります。**51住居**（写真⑧）は調査地外に外れるため、約半分を発掘しましたが、これもほぼ同じ大きさ

です。この住居は柱や中央にある炉穴の位置はそのままに二回の建て替えを繰り返しています。1B4区では見つかった住居群（写真⑦）はいくつも重なり合っ

ていますが、いずれも平面形が不整形

で、深さも数センチメートルしか残っていません。竪穴住居とは異なった構造で、簡易な覆屋のような平地式住居

だった可能性があります。**5269**（写真③）と**5268**は、古墳時代の川の流れでその大部分を流失してはいますが、方形の墳丘に溝が巡る墓です。一辺が約18メートルもある大

きな墓です。墳丘上にあつた埋葬主体部は削平されてしまい、遺骸も副葬品も残っていません。また、2A1区

の山際や中央部では、弥生土器の甕や壺を棺とした**5246土器棺**（写真⑤）と**5247土器棺**が見つかりました。



11月4日には、現地説明会と発掘体験会を開催し、たくさんの方々に参加していただきました。現地説明会では、熱心にいろいろな質問をぶつけてくれる人、出土した土器を手にとって、一々驚きの声を聞かせてくれた人と、にぎやかな会となりました。

また、同時に開催した発掘体験会にも、親子や夫婦、おじいさんとお孫さ

んに、友達同士とたくさんの方々に参加いただけました。熱心に精査をして、見事に土器を掘り出した人や、なかなか土器が見つからない人、道具が壊れてしまうくらい力を込めて掘る人、飽きて走り回っている子供と、大変にぎやかで、やり甲斐のある会となりました。

11月15日、17日には、地元の妙寺小学校の児童を現場見学に迎えました。

これからこの子供達が中学生や高校生となつて日本史の授業の時に、この遺跡見学のことを思い出してくれたらうれしく思います。

(日置 智)

現地説明会に、発掘体験会、遺跡見学



秋季企画展

「平安京と紀伊」の総括

平成18年11月6日～12月22日まで、きのくに歴史探訪館（和歌山県文化財センター調査事務所）において開催していた企画展「平安京と紀伊～平安時代から鎌倉時代の土器～」が終了しました。県内各地の平安時代～鎌倉時代にかけての瓦器や土師器などを多数展示し、あわせて同時期の平安京の土器も（財）京都市埋蔵文化財研究所から借用して展示しました。都と紀伊の土器の類似点や相違点などが比較できるように工夫した展示です。11月11日に京都市埋蔵文化財研究所上村和直氏、12月9日に和歌山市都市整備公社北野隆亮氏を講師に招いて関連した文化財講座を開催しました。講義の後に展示遺物の解説もして頂きました。講義で説明して頂いたことが、実際に目で見ることによってより理解を深めることができましたと思います。（仲原知之）



展示遺物  
(平安京の土器)



北野氏の講座風景

《編集後記》

京奈和自動車道遺跡発掘調査は、これからスタートをかけていきます。お近くにお越しの折にはぜひ、ご覧になってください。

(日置)

風車 第30号

平成19年1月11日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊 571-1

Tel : 073 (433) 3843

Fax : 073 (425) 4595

e-mail : maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp